アーカイブ室新聞　（2010 年 8 月 5 日　第 368 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　ゴーチエ子午環室で SY 式電動通風乾湿計を発見

ゴーチエ子午環室に表記の乾湿計があった。筆者は電動通風乾湿計というものが存在することさえ知らなかった。この乾湿時計の特長は、左、右 2 本の温度計をつけた測定部に、電動式の通風機構を備え、一定の通風速度をあたえ、温度計の片方（左側）に湿球（ガーゼを巻く）と右側乾球の温度差から、湿度%を測定できるというものである。通風機構を備えることにより、簡易乾湿計より精度の高い、湿度、気温がもとめられ、湿度計の標準器としても使用されるとある。写真 1 が発見された SY 式電動通風乾湿計である。
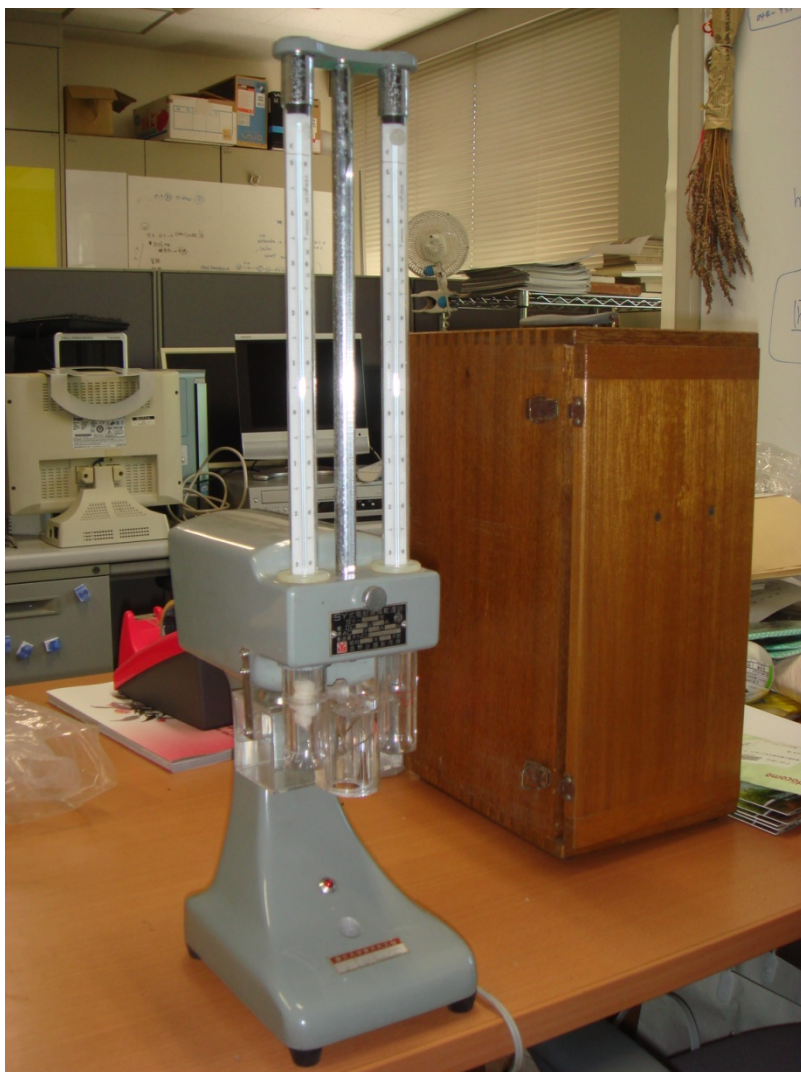
写真 1　発見された SY 式電動通風乾湿計

ゴーチエ子午環室で発見した際には、なんと木箱に逆さまに納められていた（写真 2）。取扱説明書もなかったが、何とか使いこなした。自分の部屋に持ち込み、掃除をし、箱の

中のものを取り出してみると湿球の方に使うであろうガーゼはまだビニール袋に入ったままだったから、この湿度計は使われたことが無いようである。

写真２　逆さまに入った状態だった

このSY式電動通風乾湿計は精度がよいことから気象観側、環境衛生、ビル管理の空調関係、毛髪湿度計、露点計等のチェック用にも使用されている。

２本の水銀温度計は、0.2度毎のメモリがついており、湿球、乾球への湿気の供給通風にも工夫が凝らされているようだ（写真3）

写真３　乾湿計部

乾湿の２本の温度差から湿度を読み取るため「湿度計算尺」（写真４）というものが用意されており、湿球の温度と乾球の温度をそれぞれのメモリに合わせ、湿度を読み取るようになっている。

写真４　湿度計算尺

湿球の方に用意されていた湿らせたガーゼを巻き、しばらくおいて測ってみると湿球の温度が 20.8 度、乾球の温度が 27.0 度となり、この計算尺で湿度を読むと 58%になった。部屋の温度、東京の夏にしては青空の天気、そうだこの部屋は除湿機も運転されている。この 58%という湿度は正しく測れていると思っている。

と、今回は面白い計器を発見したニュースである。これがゴーチエ子午環室でどのように使われようとしたのであろう。